

製品化事例

共同研究
技術相談

支援先

茨城県本場結城紬産地振興事業実行
委員会

変化組織による結城紬帯地の開発

【開発の背景・経緯】

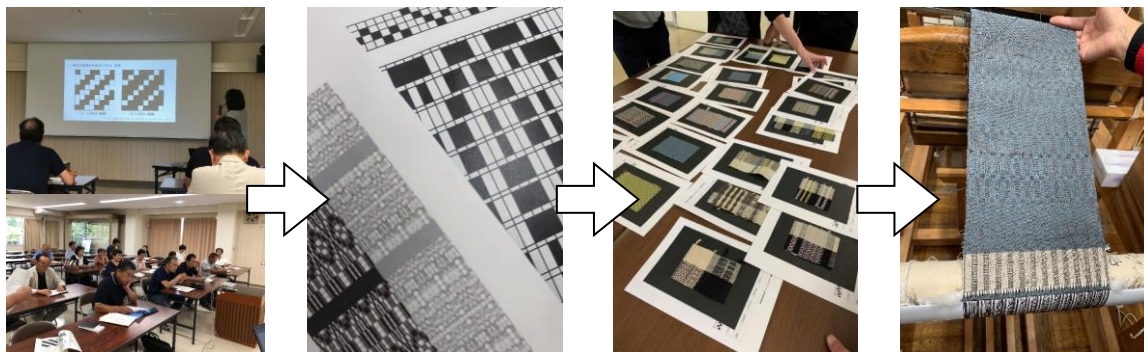
結城紬産地では、結城紬の新しい製品開発を目的とし「新商品開発委員会（茨城県本場結城紬産地振興事業実行委員会内）」を立ち上げ、変化組織による帯地の開発に取り組んでいます。

（※新商品開発委員会：本場結城紬卸商協同組合、茨城県本場結城紬織物協同組合で構成。オブザーバーとして技術革新課、結城市、当センターが参加）

【支援内容】

結城紬産地は、織機の機構や産地規格により織物組織を平織に限定していたことから、意匠は色糸の配色による縞や格子、また糸を部分的に染め分けた縞によって柄を表現し、商品展開を図ってきました。

変化組織による織物は、たて糸とよこ糸の交錯の比率を変化させて柄を表現するため、これまでの産地技術とは異なり、織物組織図の設計や織柄の展開に関する技術、アイディアが必要となります。そこで、当センターでは、①生産者向けの織物組織の勉強会、手紬糸での製織や企業の織機設備状況を考慮した織物組織図・織り方図の設計、②織物シミュレーション及び織物サンプル作製、③企業での製品試作時の織機調整等の助言等を実施し、製品化の支援を行いました。



（ 織物設計の勉強会 → 織物シミュレーション → 織物サンプル作製 → 企業での製品試作支援 ）

図1 開発支援の流れ

【開発した製品の紹介】

今回、開発した変化組織による結城紬帯地は、結城紬産地の新たなカテゴリーの製品として本場結城紬の証紙を添付し、流通販売展開されています。

なお現在、次のステップとして、製品の新たなバリエーションの展開や生産力の拡充を目指し、製織企業が中心となり、織物組織図の設計等の技術修得、サンプル試織に取り組んでいます。

【問い合わせ先】

茨城県本場結城紬振興事業実行委員会
（事務局：0296-33-2333）

図2 結城紬帯地
「彩 -irodori-」シリーズ

基礎となった事業

平成30年度～令和2年度 オンリーワン技術開発支援事業（共同研究）
令和2年度 試験研究指導費（技術相談）

現在の担当グループ

繊維・紬グループ グループ長 篠塚 雅子 TEL: 0296-33-4154
主任研究員 中野 睦子